



この2曲を弾くことが好きだと思えるようになった。頑張ろうと、少しだがやる気が湧いた。

あっという間に本番1週間前になった。なかなか暗譜ができない。焦りに焦り、最後の追い込みで何とか間に合った。1曲目のバッハは前と比べたら上達していると思うし、先生にもほめられることが増えてきた。2曲目のドビュッシーも感情を込めて、余裕をもって弾けるようになった。最初はあんなに不安だった本番が少しだけ楽しみになった。

ついに本番当日。本番は夜なので、それまでリラックスして練習ができた。それでも会場に着いたら緊張はやってくる。震えが止まらなかった。舞台裏でも途中で間違えたらとマイナスの予想図が頭をよぎった。でも、「自分は大丈夫」「練習はやれるだけやった」と言いきかせた。やっと自分の番。椅子に浅めに座り、深呼吸。指が鍵盤に下りていく。

1曲目は少し速くなってしまったもののほとんどミスすることなく弾き終えた。続いて2曲目。とにかく練習の成果を見せよう、それだけだった。5分間、長いようで短い不思議な時間だった。1回も止まらず、しかもリラックスして弾けた。満足感と驚きが入り混じった「楽しさ」がそこにあった。

弾いているときに感じたある感情。それは心から楽しいという気持ち。今まで緊張する場で楽しいと感じたことは一度もなかった。

つまり、私自身が大きく変わったのだと思う。心から楽しいと思うことは自分を大きく成長させてくれた。コンクールを終えた今、何事も乗り越えたいという思いが強くなった。簡単には越えられないような壁が自分の中に新しくできたとき、ただ「頑張ればいい」だけでは何も変わらなかった。新しいことに挑戦したいという思いと、自分もっているエネルギーが必要なのだ。コンクールでも「音楽が好き」という思いが、大きなエネルギーになった。

将来、音楽関係の仕事に就かなくても、この「好き」のエネルギーは絶対大事にしよう。未来を明るく、よりすてきなものにするために。